

3 道路周辺大気

(1) 環境基準の達成状況

自動車排出ガス測定局における環境基準の達成状況は表－3のとおりです。二酸化窒素（7測定局）、浮遊粒子状物質（7測定局）、一酸化炭素（2測定局）、微小粒子状物質（6測定局）のいずれも全ての測定局で環境基準を達成しています。

表－3 道路周辺大気環境基準達成状況（長期的評価）

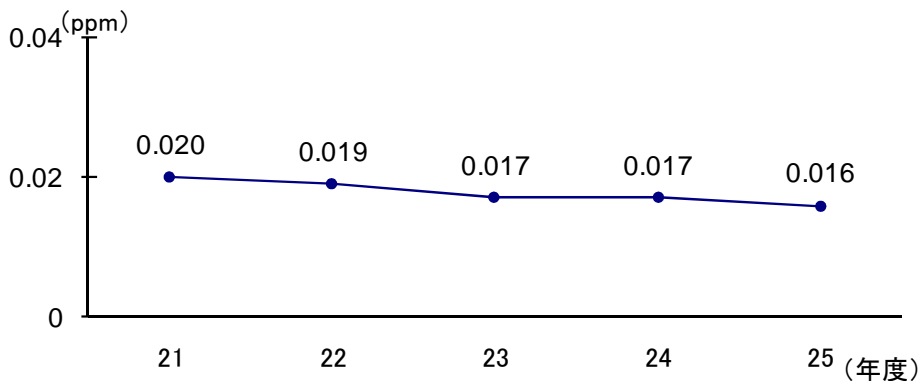
測定局名	二酸化窒素		浮遊粒子状物質		微小粒子状物質		一酸化炭素	
	24	25	24	25	24	25	24	25
長野市小島田局	○	○	○	○	○	○	○	○
長野市鍋屋田局	○	○	○	○	○	○	○	○
松本渚交差点局	○	○	○	○	○	○	○	○
上田常磐城局	○	○	○	○	○	○	○	○
更埴インターチェンジ局	○	○	○	○	○	○	○	○
岡谷インターチェンジ局	○	○	○	○	○	○	○	○
飯田インターチェンジ局	○	○	○	○	○	○	○	○
達成状況	7	7	7	7	6	6	2	2
	7	7	7	7	6	6	2	2

測定時間数	環境基準	
	達成	未達成
6,000時間以上	○	●
6,000時間未満	△	▲

(注)長野市小島田、鍋屋田局は長野市が測定を実施

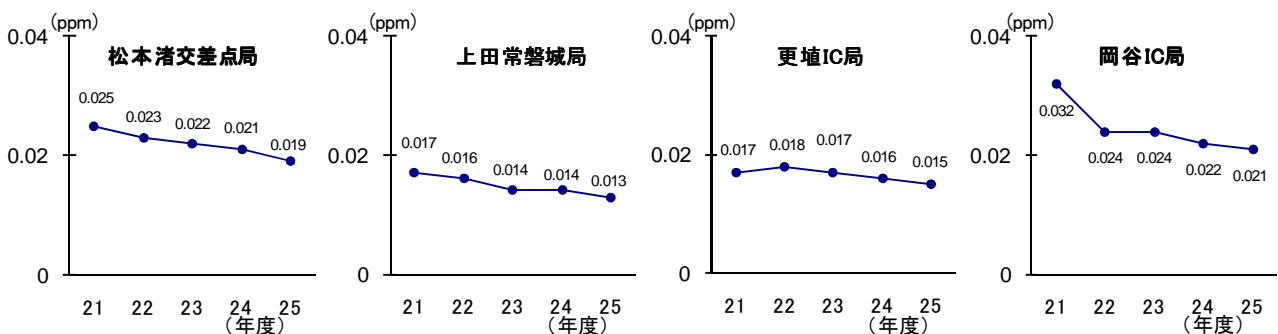
(2) 年平均値の推移

自動車排出ガス測定局の年平均値の推移は、図－11から図－17までのとおりです。二酸化窒素は緩やかな減少傾向にあり、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質及び一酸化炭素はほぼ横ばい傾向にあります。

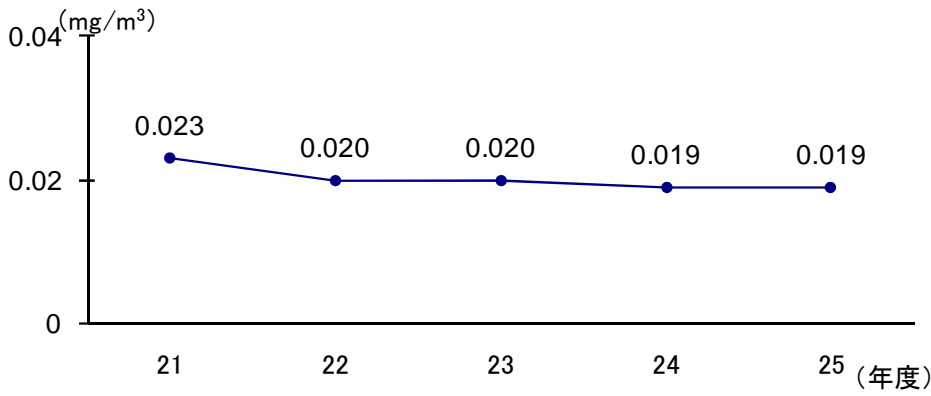


(注) 7測定局平均値

図－11 二酸化窒素の年平均値の推移



図－12 主な測定局における二酸化窒素の年平均値の推移



注) 7測定局平均値

図-13 浮遊粒子状物質の年平均値の推移

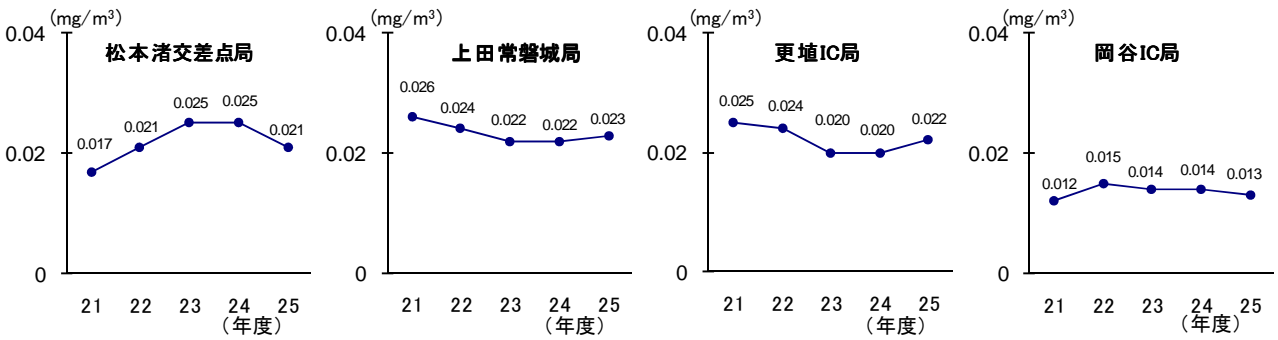
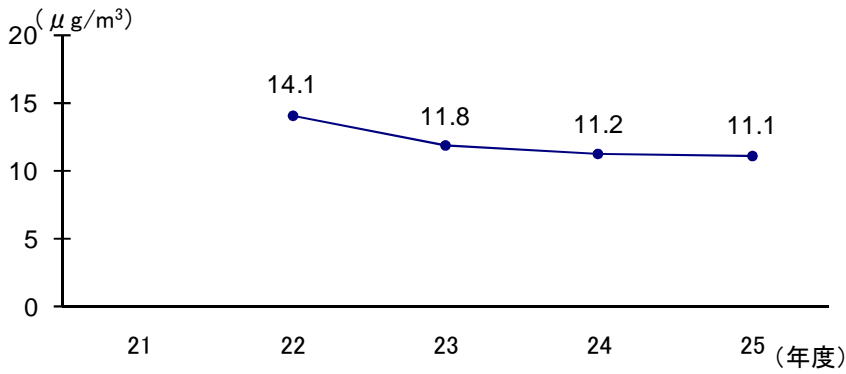


図-14 主な測定局における浮遊粒子状物質の年平均値の推移



注) 測定局平均値
平成22年度は1測定局
平成23年度からは6測定局

図-15 微小粒子状物質の年平均値の推移

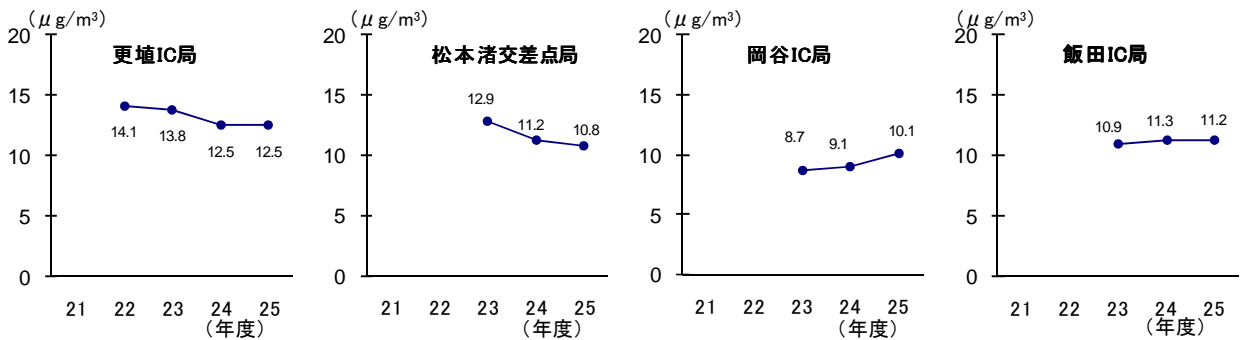


図-16 主な測定局における微小粒子状物質の年平均値の推移

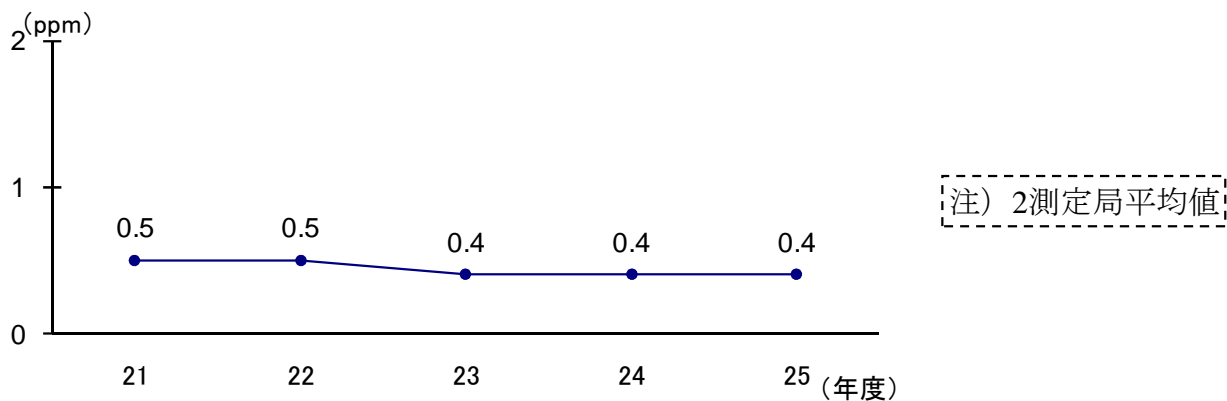
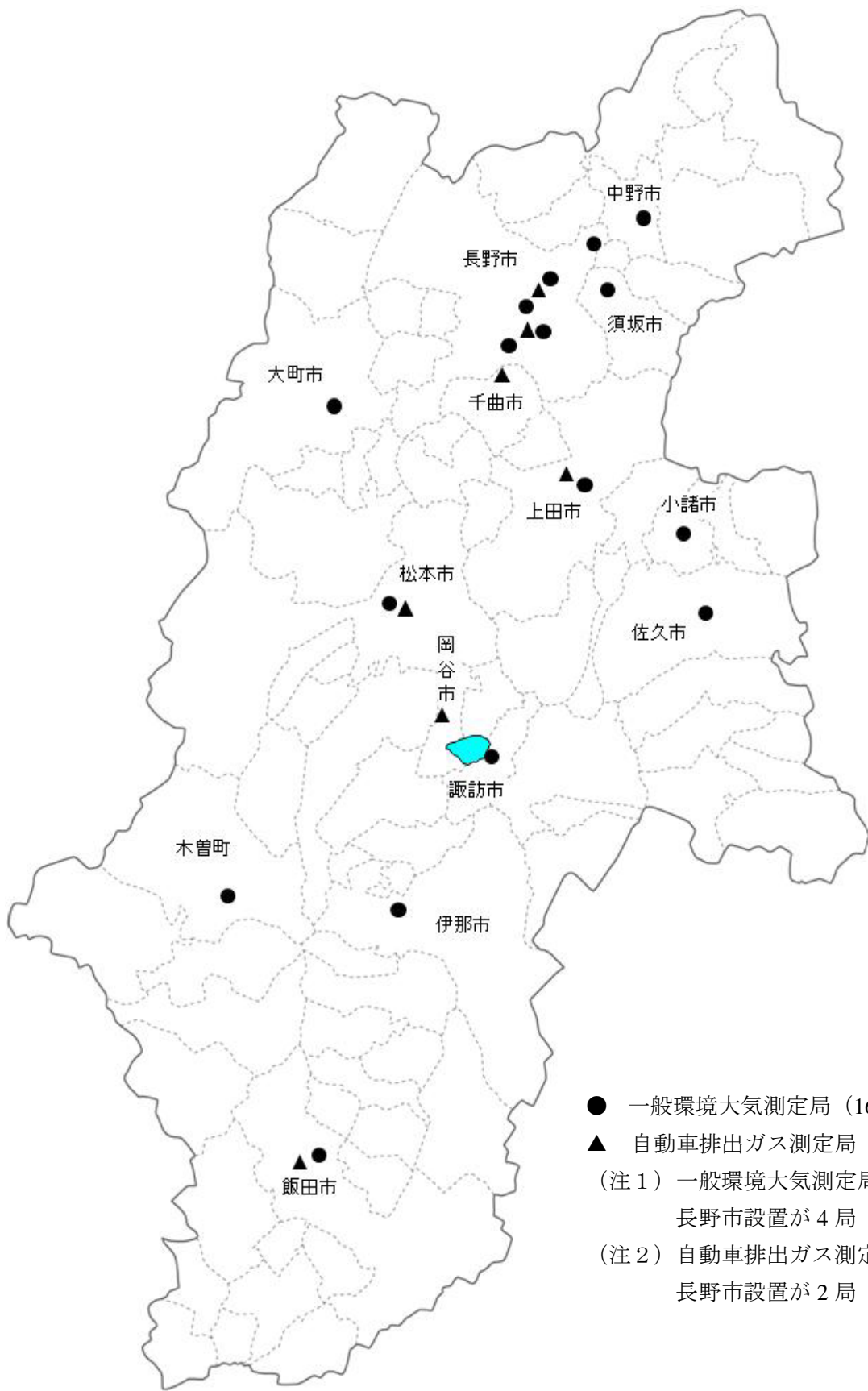


図-17 一酸化炭素の年平均値の推移

(参 考) 大気の汚染に係る環境基準と評価方法

物質	環境基準	評価方法
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04 ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1 ppm以下であること。	年間を通じて測定した1日平均値の高い方から2%の範囲にあるもの(365日分の測定値がある場合は7日分の測定値)を除外して、環境基準と比較する。
一酸化炭素	1時間値の1日平均値が10 ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20 ppm以下であること。	ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は非達成とする。 (長期的評価)
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10 mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20 mg/m ³ 以下であること。	
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04 ppmから0.06 ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。	年間通じて測定した1日平均値のうち、低い方から98%に相当する値(日平均値98%値)と環境基準を比較する。(長期的評価)
光化学オキシダント	1時間値が0.06 ppm以下であること。	昼間(5時から20時までの時間帯)の1時間値と環境基準を比較する。
微小粒子状物質	1年平均値が15 µg/m ³ 以下であり、かつ、1日平均値が35 µg/m ³ 以下であること。	長期基準として1年平均値を環境基準と比較し、短期基準として年間における1日平均値のうち低い方から98%に相当する値(1日平均値の年間98パーセンタイル値)と環境基準を比較する。(長期的評価)

※長期的評価：大気汚染に対する施策の効果等を的確に判断するなど、年間にわたる測定結果を長期的に観察したうえで行う評価。



- 一般環境大気測定局（16局）
- ▲ 自動車排出ガス測定局（7局）
- （注1）一般環境大気測定局16局のうち長野市設置が4局
- （注2）自動車排出ガス測定局7局のうち長野市設置が2局

図-18 大気常時監視測定地点図（固定局）